

あつきのたより

12月



発行責任者
前田 功

【校長室より】

2学期終了

早いものであつという間に2学期が終了しました。私は、始業式の挨拶の中で「2学期は行事の多い学期である。それぞれの学年の役割をきちんとわきまえながら、『若さと連帯』をモットーに、9月の体育祭・五高祭をはじめ、みんなが楽しく、思い出に残る行事にしてほしい。みんなが手を汚し、汗を流し、協力することにより、人間力を高め、一人ひとりの『実りの秋』にしてくれることを願っている」と伝えました。それを受けて、生徒諸君の頑張りのおかげで、体育祭、五高祭をはじめ10月の福江みなと祭り参加、衛生看護科の戴帽式、そして2年生の修学旅行と、どの行事も非常にすばらしいものになりました。学校行事に臨む生徒の姿は一生懸命で、見ていて気持ちがよくなりました。

ところでその「一生懸命頑張った」などと使う「一生懸命」という言葉は元々、「一所懸命」という言葉から来たものだったのです。意味は封建時代において、昔の武士が一つの所つまり主人から与えられた領地を死守して生活の糧としたところからきているのです。領地を取られないように、武士は文字どおり死にもものぐるいで闘っていたのです。現在は皆簡単に口に出していますが、鎌倉時代の昔から江戸時代に至るまで、武士の信条を表す重要な意味を持った言葉だったのです。その「一所懸命」に連なる「一生懸命」それぞれの目標の達成のために努力をしてもらいたいと思います。

3年生諸君は、進路希望の実現に向けてペースは上がってきたでしょうか。三者面談において受験に向けての具体的な話が飛び交っていると思います。大学入試センター試験受験を受けて、2次試験受験大学についての説明が担任の先生からあったはずですが。受験校検討会において検討に検討を重ねた結果を受けてのことです。生徒本人の思いもあるだろうし、保護者の方のお考えもあるだろうから無理強いはいしないのですが、どこの大学に入るかよりも、大学で何を学んできたか、が問われる時代になっているのも事実です。よく考え、悩んでほしいと思います。ただ、センター試験まであと1ヶ月を切っています。悔いを残さないように、と言いたいところですが、必ず悔いは残ります。その悔いをできるだけ最小限に食い止められるように、最後の最後まで、それこそ一生懸命に、努力に次ぐ努力をお願いしたいと思います。

2年生の皆さんは、明日は我が身、来年は自分がこの渦の中でもがいているのかと改めて思う、まさにその時期であります。今のうちから少しでも対策をしておけば来年の今頃、楽になるかもしれません。ぜひ今のうちから自分で自分の学習態度をコントロールすること、つまり自学のできる態勢を作っておいてほしいと思います。「受験は団体戦」とよく言われます。実際私も何度も口にしています。ただし、いくら団体戦でも個人の学習が根本にあって、その個人の学習の量や質の上にみんなで頑張る、という態勢があるのです。だからぜひ一人ひとりが自分のペースで、自分の長所短所を見据えながら、学習できるように今のうちから態勢作りをしてほしいと思います。「来年のことを言うと鬼が笑う」とよく言われますが、2年生にとってはあつという間の1年間になります。しっかり自分で自分を見つめて頑張してほしいと思います。

1年生諸君は、まだまだ本気を出していません。3年生や2年生の先輩の姿をみて、自分は何をしなければいけないのかよく考えてほしいと思います。学習に対する自主的な取り組みはむろんのこと、五島高校の学校行事を中心になって運営するのは1年生の仕事になってきます。先輩のいいところは真似、別のやり方がよいと思われるところは、すっぱり変えながら運営して行ってほしいと思います。「不易流行」という言葉があります。もともとは俳人芭蕉の俳諧用語であったのですが、意味は不変、変わらないものと流行、変化するもの、二つをあわせたものです。何でもこの世の中には変わっていくものと変わらないもの、変えてはならないものの二通りあるわけです。学校行事の運営においても一緒だと思うし、学習の態度にしてもそうだと思います。変えるべきもの、変えてはならないもの。よく見極めて学校行事運営の中心になってほしいと思います。

思えば平成23年は3月11日の東日本大震災から始まったようなものでした。我々人類がいまだかつてないような自然災害に襲われ、2次被害として原子力発電所の放射能漏れが生じ、それはいまだに収束していません。だからこそ我々ができることは何かよく考えていかなければならないと思います。社会の閉塞状況を打破するために若い力が必要とされているのです。そういう意味でも、それぞれの学年の生徒諸君が、新しい年の始めにそれぞれの目標を立て、行動できるように祈念して平成23年の締めくくりとします。

12月3日(土) 部活動生集会

12月3日(土)、石田塾終了後に体育館にて部活動生集会を行いました。この集会を通して、生徒自身が考え行動する力を身につけてほしいと考えています。整列、点呼、服装、進行、原稿の準備など自分たちの力で運営し、また、活性化させるための方法等があればどんどんアイデアを出してもらいたいと考えています。

さて、今回の部活動生集会では放送部部长、長尾静夏さん、吹奏楽部部长、山本千晴さん、女子バレー部部长、太田雅子さんがそれぞれの部活動の近況報告やこれからの活動予定、また部活動で注意してほしいことを話しました。

放送部は、2年1組の吉田朱夏さんが九州放送コンテストで優良賞を受賞し、九州大会への出場を決定しました。また、体育祭などの学校行事の活動や昼休みの校内放送なども積極的にこなっているのですが、現在は部員3名の状況です。是非、興味がある人は入部してもらいたいものです。

吹奏楽部は2年生6人、1年生15人で活動しています。現在は1月29日(日)に実施される長崎県吹奏楽祭に向けて準備に余念がありません。聴いてくださる方々の心に響く演奏を目標にして練習に取り組んでいます。

女子バレー部部长の太田さんからは、けがの予防、風邪やインフルエンザへの対策、下校時のマナーについて話がありました。特に、自転車での下校時はライトを点灯させ安全を確保すること、またコンビニエンスストアでのマナーについては十分注意してほしいことです。

今年度は来年2月に部活動生集会が実施される予定です。来年度に向けての抱負や春季戦での目標などがテーマになります。それぞれの部活動が力を蓄えて目標とする大会で結果を残してくれることを期待しております。

12月5日(月)～12月9日(金) 修学旅行

12月5日から4泊5日で修学旅行を実施しました。今年も去年に引き続き、東京の企業・大学訪問そしてスキー研修という内容でした。

東京の企業訪問では、本校のOBの方々から激励を受け有意義な時間を過ごしました。改めて創立111年の伝統校の重さを感じることができました。今年は雪不足でスキー研修ができず、大幅な予定変更となりましたが、生徒も落ち着いて行動していました。スキー研修の代案で長野県の岡谷市にあるスケート研修では、インストラクターの方々から「五高生の整列・礼儀作法はすばらしい。」とのお褒めの言葉もいただきました。旅行中も全員が元気に活動することができ、よい思い出づくりができたと思います。

当初は190名を超える集団での旅行に不安も大きかったのですが、空港やホテルでの動きもスムーズで大きな混乱もなく行動できました。『やるときはやる2年生!』を感じることができた修学旅行でした。

《浅草 雷門前にて》



《スケート研修》



《昼食》



12月14日(水) 「長崎大学進路説明会」

12月14日、長崎大学進路説明会が1、2年生と教職員を対象に開催されました。

講演では、長崎大学に関する多くの興味深い内容が紹介されました。今年3月の東日本大震災の際に、長崎大学の被爆医療チームや学生ボランティア、水産学部の実習船が最前線で活躍したことから、『現場に強い、危機に強い、行動する大学』として認識されているそうです。また、放射線の研究や感染症の研究をはじめ、国際レベルでの研究が盛んに行われていることなど、生徒たちは興味を持って説明に聞き入っていました。

また、長崎大学の教育改革についても説明を聞くことができました。

「国際社会でのリーダーの育成」を掲げ、『自ら考え、決定し、行動することのできる』学生を教育するため、英語教育の充実など、数々の教養教育の改革が進行しているとのことでした。

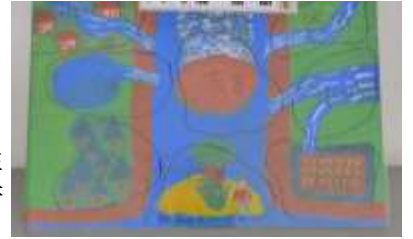
本校では過去多くの卒業生が長崎大学に進学しており、在校生の中にも長崎大学を志望校に掲げている生徒がいます。今回の説明会は生徒たちの充実した進路研究の時間となり、学習意欲を高めた生徒も多くいるようです。講演後は多くの生徒が教授と直接会話するなど、積極的な姿勢が見られました。



12月22日(木) 第6回芸術科学習発表会

去る12月22日、終業式の日の中午に第1学年全員で芸術科学習発表会を行いました。美術選択者は「友達の名字を使って風景画を描こう」というテーマで、個性豊かな力作を展示しました。各クラスから代表者の作品説明があり、完成までに苦労したことや、工夫したポイントなどを味わいながら鑑賞することができました。

音楽選択者は、各クラスの合唱と独唱の発表、そして最後は全員でベートーヴェン作曲の「歓喜の歌」を声高らかに響かせました。合唱、独唱はもちろんのこと司会や挨拶の生徒達も含めて、ステージの上で堂々と発表する姿に胸が熱くなりました。高いレベルの作品と舞台を作り上げてくれた一年生に心からの拍手を送りたいと思います。芸術に対しても決して手を抜くことなく、真剣に向き合ってくれる五高生の素晴らしさをかみしめて、とても幸せな時間となりました。今後も、五島の文化発展のために、五高生が輝き続けてくれることを切に願っています。



12月22日(木) <学力向上に関する報告会について>

12月22日(木)午後より、福岡県立戸畑高等学校 長井敏郎先生、長崎県高校教育課 原昌紀先生、ベネッセコーポレーション 劉耕助先生を講師としてお招きし、「学力向上に関する報告会」を実施いたしました。終業式の日にもかかわらず、県内・五島市内の高等学校からも参加していただくことができました。

今回の報告会では、夏休みの職員研修以降、各教科や各学年で取り組んできたことの報告・検証や課題などが報告されました。

長井先生による基調講演「自律(自立)型人間への成長を目指して」の中では、「何のために学ぶのか」を考えさせる指導の話が特に心に残りました。大学合格の先にある学びの目的について、一人ひとりの教員が自分自身の軸(考え)を持って生徒に話をすることの大切さを学びました。高校教育課とベネッセコーポレーションの先生方からは、本校の課題についての助言をいただきました。今後も生徒たちの人間的な成長ならびに進路実現に向け、真摯に取り組んで参ります。



12月23日(金) 第32回五島吹奏楽祭

12月23日(祝)福江文化会館で第32回五島吹奏楽祭が開催されました。これは、上五島・中五島・奈留・下五島の地区の中で吹奏楽部がある小・中・高等学校が集まって催される30年以上も続く歴史ある演奏会です。

今年は、寒波で客足が伸びるのか心配しましたが、例年以上のお客様が会場に足を運んでくださり、会場の中はとても温かい雰囲気に包まれる演奏会となりました。他地区には見られない、五島地区が誇る歴史ある演奏会なので、今後も五島の吹奏楽愛好者が増えて、途絶えることなく続いてほしいと思います。



12月25日(日) 男子寮の引っ越し

平成23年12月25日、坂の上から池田町へ引っ越ししました。

引っ越し作戦第一弾として、12月10日にサッカー部、剣道部、そして男子寮生が、転居先である女子寮B棟の清掃活動を行いました。押し入れの中には、かつての寮生が残した衣類、書籍類、その他いろいろ…。埃まみれになりながら、2時間の格闘の末、何とか入居できる状況にこぎつけました。清掃活動を行ってくれた部活動のみなさん、ありがとうございました。

そして、12月25日には、住み慣れた部屋と、これまでお世話になった寮母さんに別れとお礼を告げ、B棟に完全転居しました。これからも、下野寮長、以下男子7名は、新天地でひたむきに頑張ってくれると信じています。これからも女子寮ともども男子寮をあたたくご支援ください。



「2011年の終わりに」

第1学年主任 村田 誠

激動の2011年がもうすぐ終わります。今年は、これまで想像したこともない震災が東北地方を襲い、それに伴う原発事故もあり、様々な想いに心の動揺が大きかったのではないのでしょうか。遠く離れた長崎県に住む私たちも、言いようのない辛く悲しい気持ちになりました。しかし、そのなかで、多くの感動もありました。特に忘れられないのが、春の甲子園大会の選手宣誓です。

「宣誓、私たちは16年前、阪神・淡路大震災の年に生まれました。
今、東日本大震災で、多くの尊い命が奪われ、私たちの心は悲しみでいっぱいです。
被災地では、全ての方々が一丸となり、仲間とともに頑張っておられます。
人は仲間を支えられることで、大きな困難を乗り越えることができると信じています。
私たちに、今、できること。
それはこの大会を精いっぱい元気を出して戦うことです。

がんばろう！日本

生かされている命に感謝し、全身全霊で、正々堂々とプレーすることを誓います。

平成23年3月23日 創志学園高等学校 野球部主将 野山慎介

スポーツなどしている場合ではない、という世論もあるなか、開催された春の甲子園。この選手宣誓がその懸念を振り払い、スポーツの力を強く感じさせました。きっと彼は、一心に野球に打ち込み、仲間と共に甲子園への切符を手にしたのでしょう。だからこそあれだけ人を感動させるのだと思います。

スポーツに限ったことではありません。文化部でも、もちろん勉強であっても、高校生活の中で何かに一心に打ち込む経験が、人を強く、たくましく、立派にしていくのだと思います。第1学年のみなさんにとって、五島高校でのあと2年余りの生活が本当に充実したものとなり、大きく成長した姿で卒業式を迎えることができるよう、我々も精一杯、支援していきます。2012年もよろしくお祈りします。

第2学年より

第2学年主任 楠本 亨

2学期は9月の体育祭、五高祭に始まり、10月の戴帽式、各部の大会・新人戦そして12月に修学旅行と大きな行事が目白押しでした。様々な行事を通して、それぞれの生徒が確実に成長してくれたと感じています。

学業面では、10月に実施された進研実力テストでは、5教科文系・理系とも、県内の同規模の学校と比較して下位に甘んじています。まだまだ十分に成績を上げられていない教科が多くありました。家庭学習の習慣および時間量について早急に改善すべきであると考えています。学年でもこの結果をうけて学力検討会をもち対策を考えました。この結果を真摯に受け止め、授業・補習が大切であるという視点で指導の改善を行っていきます。生徒達の今後の奮闘を期待しています。

修学旅行が終わると、3年の高校総体まで間があります。この時期は『受験生としての覚悟をきめる時期』です。3年生になってからでは到底間に合いません。そのため2学年では1月からの時期を「2年生3学期」ではなく、『受験生1学期』とし、指導していくつもりです。進路実現のためには早期の目標設定が必要です。学年でも、進路研究の一環として志望理由書の作成を通して、自分の進路を見つめる機会を考えています。御家庭でもお子様と進路について話し合う機会を設けていただきますようお願いいたします。

また、学校生活をより豊かなものにし、進路目標を達成するための一番の要素は基本的な生活習慣です。今後も容儀を乱さない、遅刻をしない、課題は提出期限を守ってきちんと提出するなど、当たり前のことを当たり前にできるよう、粘り強く指導していきますので御協力をお願いします。

最後に保護者の皆様方には、学年の指導に対しまして、御理解いただきありがとうございます。3学期も職員一丸となって頑張りますので、よろしくお祈りします。

「それでも人はまた歩き出す」

第3学年主任 増本 欣也

今年の正月は大雪から始まった。海が荒れ、実家に帰れず、我が家族は五島で年を越した。来るべき年末年始は、私一人、ここにいる。学校を開けて、3年生と共に学ぶためだ。先生方も君たちを待っている。みんなで頑張ろうじゃないか。

さて、「冬休みに向けて」という題で、思いの丈を書くように言われた。しかしこの場に及んでは「第一志望合格を目指し、最後まで粘れ！諦めるな！」くらいしか言うことがない。

それにしても寒い季節になってきた。

私は初任校で、生徒会を担当していた。その業務の中に生徒会を中心としたバンドの練習に付き合う？というものがあった。ちょうど今の時期、放課後は来る日も来る日もバンドマン達と共に過ごした。彼らが弾いていた曲は、当時流行っていたGLAYの「BELOVED」だった。

「やがて来る それぞれの交差点を迷いの中 立ち止まるけど それでも 人はまた歩き出す」

寒くて、そして広い体育館のフロアに一人座り、ステージの彼らを眺めていた。18才の彼らはどんな気持ちでこの曲を演奏していたのだろう。教員駆け出しの私は、何を想い、この曲を聴いていたのだろう。

あれからかなりの時間が経った。私自身にもいろんなことがあった。振り返るにはまだ早いが、今年、この立場になり、考えることがたくさんあった。それにしても、迷ってばかり、立ち止まってばかりだった。本当にたくさんの人々に迷惑をかけたと思う。なぜだろう、最近、やけにこのフレーズが頭の中を駆けめぐる。しかしどんなことがあろうとも歩んでいかなければと思う。

3年生のみなさんも今、それぞれの交差点に立っている。この1年、自分がどの方向に進むべきなのか、何度となく、迷い、立ち止まったことだろう。そんな中で、自分が選んだ確かな道に進むために、君たちは苦しい日々を歩んできた。

これから先、どんなことがあろうとも、それでもまた歩き出してほしい。

さあ、勝負の瞬間がやってきた。頑張れ3年生！